

中国農村部の中学校中退に関する文化人類学的考察

中国河南省正陽県X郷鎮における中学校中退者の実態調査から

A Cultural Anthropological Study on Junior High School Dropouts in Rural China

A Survey of Junior High School Dropouts in X Township, Zhengyang County, Henan Province, China

学生氏名：魯娜（ルナ）

指導教員 渡部瑞希

帝京大学 経済学部

キーワード：文化人類学、中学校中退、中国農村部、贈与、互酬性

1. 研究の背景

私は、中国農村部の中学校中退者馬さんのライフストーリーを記録した『出路』というドキュメンタリーをきっかけに、中国における中学校中退に関する研究をはじめた。馬さんは中学校を中退した後、低学歴のせいで仕事を探すことができず、16歳で自分の従兄と結婚することになった。夫も中学校中退者である。中国の農村部では、中退者同士が早期に結婚して子どもを産むことは珍しくない。結婚生活が幸せであるなら中退しても悪くないかもしれない。しかし、問題は早期の結婚にあるのではなく、中学校中退が何世代にもわたって繰り返されることにある。出産後、馬さんは生活費を稼ぐため、夫と共に都市部に出稼ぎに行くことになった。その間、子どもの面倒は祖父母が見ることとなる。両親不在の状態では子どもの教育に目が行き届かなくなってしまう。そのため、中学校中退者を両親にもつ子どもの中退のリスクはさらに上ることがになるのだ。こうした中国農村部に蔓延る悪循環はどう対処すべきか。それを知るためにには、まず、中学校中退が農村部でなぜ生じるのかを明らかにする必要があると考えた。

2. 先行研究の問題点

本発表が対象とする中国河南省正陽県X郷鎮は、中学校までは義務教育だが、農村部の中学校中退率は60.82%と高くなっている。こうした高い中退率は中国の都市部には見られない傾向である。なぜ、農村部ではこうした問題が生じるのだろうか。

劉の研究によれば、中学校中退の原因は三つに分けられる。1つ目は学生の本人の問題である。成績がクラスの後半になると、学生本人の自信が徐々になくなり、学校に行かなくなるというものである。2つ目は家庭の問題である。農村部の家庭では「読書無用論」の考えが根強く、学校へ行くことを無意味だとする家庭も少なくない。3つ目は学校の教育の質の問題である。農村部では通学に自転車で一時間かけて行くことも珍しくないし、教師の給与も都市部と比べて低い。また、学校の教育設備も不十分である。そのため質の低い教育しか提供できず、落ちこぼれた生徒を救済しようとする教員の資質、制度、設備の不足が問題となっている（劉・2022）。

しかし中学校中退の高さは、こうした三つの点だけでは説明できないのではないか。中退者に社会

的居場所を与え、かつ中退者にも生活を保障するような農村部社会制度や慣習そのものにも原因があるのではないか。具体的には、伝統的農村社会における礼治制度や「差序格局」に基づく親族や近隣者との互酬関係である。郷土社会は、「差序」とは、「己」が心の中で他者を異なる半径の同心円状に序列化して位置づけ、ウチからソトに向けて波紋の高さが徐々に低くなっていくように、「序（序列）」に従って「差（格差）」が生じるということである（花澤 2010）。

人びとにとって「己」を中心とする私人関係の及ぶ範囲は固定的であり、儒教倫理に従って、「礼」をもって行動すること、すなわち長期的な相互扶助や互酬性による貸し借りによって私人関係を満たす「礼治社会」が常である。人々はトラブルが起きた場合に裁判所に訴えることをせず、郷紳など、村の顔役に仲裁を頼む。彼らは両者を前に意見を述べ、両者を裁くのではなく、両者を教育する。これに従って両者はいつも和解することになり、騒ぎを起こした罰として仲裁者を一度食事に招く（花澤 2010）。裁判を起こす人は調停の結果に不満を持つ人、つまり、「礼」に服さない非人とされた人びとである。

こうし「己」を中心とした礼治制度が支配的な農村社会において、中退者の急増は教育制度そのものにあるのではなく、礼治制度と教育制度との齟齬にこそあるのではないか。また、中退という形で教育現場から脱線したとしても、中退者は「差序格局」に基づく親族や近隣者との互酬関係によって、農村社会に包摂されることも考えられる。たとえば、中退者は、「差序格局」のネットワークを活用し、都市部に出稼ぎいでたり中退者同士で結婚相手を探すことができる。中学中退であっても農村部で社会的な地位を確立することが可能となっている。

3. 本発表の目的

本発表の目的は、中国農村部の中学中退の原因を、生徒の個性や家族の理念、質の低い教育からではなく、農村社会の「差序格局」に基づく親族や近

隣者との互酬関係や、礼治制度と教育制度との齟齬から説明することである。具体的な調査対象地は、発表者の故郷でもある河南省正陽県X郷鎮である。主として、X郷鎮に一校だけある中学校を中退した人びとを対象に、Zoonを使ったインタビューを実施し、彼らのライフヒストリーを収集する。

4. 文化人類学的方法論—互酬性

本発表の目的と達成するために、文化人類学の主要な理論の1つである互酬性の議論を用いて分析を試みる。互酬性について論じたマーシャル・サーリンズは、親族間などで行われる一方から他方へ惜しみなく与える分与、親切なもてなしを「一般的互酬性」、交易や友人間の契約といった同型・同量の財の交換を「均衡的互酬性」、相互に最大限の利益を求めるとする値切り交渉、投機、詐欺、窃盗などを「否定的互酬性」と分類した（サーリンズ 1984）。一般的互酬性と均衡的互酬性は、贈り物に対して返礼をすることが義務である一方、贈り物と返礼に負債をつくりながら社会関係を継続させる一方で、否定的互酬性は社会関係を断ち切るものである。

本発表では、中退者が教員や両親、近隣者、友人との関係性を築く中で、どのような贈り物・金品のやり取りをしているかについてデータ分析する（仕事を斡旋したり結婚相手を紹介してくれる人物とどのような贈り物、金品のやりとりをするか、教員と生徒の間でそういったやり取りはあるかなど）。その結果から、中退を受け入れる社会／中退が増えてしまう社会の有様を明らかにする。

5. 参考文献

1. 費孝通（2012）「郷土中国」北京大学出版社
2. 費孝通（2012）「江村経済」北京大学出版社
3. 劉麗鳳（2022）「中学中退－中国農村中学校の生徒と教師のエスノグラフィー」世織書房
4. 花澤 聖子（2010）「近代化政策下における中国農村社会の「差序格局」」
5. サーリンズ、マーシャル（1984）『石器時代の経済学』山内昶訳、法政大学出版局